

安西冬衛全集

別卷

安西冬衛全集

江苏工业学院图书馆
别卷藏书章

宝文館出版

安西冬衛全集 別卷

昭和六十一年八月三十日 第一刷發行

定價 四五〇〇圓

著 者 安 西 冬 衛

編 者 山 田 野 理 夫

發行者 羽 生 和 男

發行所 寶文館出版株式會社

東京都千代田區神田神保町三ノ一七

郵便番號一〇一

振替東京五一二八〇

電話〇三(二六一)四四〇九

印刷所 中臺整版
製本所 黒岩大光堂

©1986 Misaho Anzai

Printed in Japan

ISBN 4-8320-1304-1

目 次

放送台本

I

翼への美しき挺身……………	15
大仏千二百年祝典譜……………	18
録音風物詩「海」……………	20

II

ルポルタージュ……………	
災禍を越えて立ち上る人々……………	25
大正区の浸水地帯をゆく……………	27
水禍の三宝……………	27

III

ラジオ絵葉書……………	31
ラジオ絵はがき……………	32
ラジオ絵葉書 私のふるさと……………	32
ラジオ絵葉書 思い出の大連……………	33
春を待つ心……………	34
失われたふるさと……………	37
煙草遍歴……………	38
桜の思い出 うこん桜……………	40
升田幸三との三時間二十五分……………	41

講演・談話

I

詩の運命……………	43
現代詩について……………	50
考へ方の革命……………	57

II

売春防止はこうして……………	68
善意が点す灯……………	68
(障害をこえて)……………	69
(東住吉高校校歌作詩を依頼されて)……………	69
私の分岐点……………	69
思いつくまま……………	71

雑 纂

I

「亜」(後記)	75
「詩法」後記	80
「詩文化」エルゴ・ペリゲロ	80
「現代詩」	
コレスボンダンス、編集後記、噴射塔	86

II

展覧会にあたりて	88
国民詩朗読運動の展開	88
国民詩朗読の夜のこと	89
大阪府立堺工業学校校歌に寄せて	90

池田小学校校歌、作者のことば	91
富田林幼稚園園歌、作者のことば	91
東住吉高校校歌、作者のことば	92
「働く人の詩」月評	92
毎日中学生新聞「詩」作品欄	

はじめのことば	93
選者から新しい皆さんへ	93
「新しさはより古きもののなかに」	93

註解	96
----------	----

「千鳥」作者の言葉	97
ザヴィエル記念碑撰文	97
堺水族館の縁起	97
名産・堺打刃物のしをり	98

生命の泉……………	98
ハリスクイズを愛しむ……………	99
訪問・鍋井克之……………	99

III

I

余はかく詩を観ず……………	104
(渡辺修三詩集「エスタの町」感想)……………	104
最近詩壇に望みたき事……………	104
詩神新聞……………	104
現代日本女性詩人を如何に観るか……………	105
最近の我国文学の国際的傾向を如何に見るか……………	105
南窗集を見る……………	105
アンケート……………	106
著者の言葉「渴ける神」について……………	106
アンケート……………	106

最近の読書……………	107
アンケート……………	107
アンケート……………	107
アンケート……………	107
読書ノート……………	108
アンケート……………	108
私の好きな作品——連合展から……………	108
アンケート……………	109
貴方の最大の敵は何か……………	110
アンケート……………	110
わたしの推薦図書……………	110
私のすいせん書……………	110
あなたはどうか考えるか……………	110
座右の書または枕頭の書五冊……………	111
(依田義賢詩集「ろしま」感想)……………	111
わが詩劇観……………	111
横山房子句集「背後」に寄せて……………	111
通信……………	112

頭の体操 私の薦める緑陰の書…………… 112

2

今年のヒットを思い出す…………… 112

私の耳…………… 113

ガンバレ泉陽…………… 113

ファン予想…………… 113

近ごろ見た映画…………… 114

アンケート…………… 114

映画「ドン・キホーテ」…………… 114

映画アンケート…………… 115

静かなるドン・憂愁篇…………… 115

「にあんちゃん」の上演に寄せて…………… 115

3

旅のアンケート…………… 116

愛する地帯…………… 116

私の好きな風景…………… 116

私の好きな風景…………… 117

私の好きなハイキング・コース…………… 117

もういちど行ってみたい旅行地…………… 117

4

大好物…………… 117

わが家の冷たい料理…………… 118

(なつかしい食べ物)…………… 118

私の好きな味の店…………… 118

私の好きな店…………… 119

大丸東京店へのぞむ…………… 119

有名人のみたタカシマヤ…………… 119

5

ソ連の原爆所有と世界平和の

前進について…………… 120

アンケート…………… 120

(第五次吉田内閣成立を前に)…………… 121

汚職をどうみる……………	121
大阪府青少年保護育成条例について……………	121
府政・今後の課題……………	122
私の大阪採点……………	122
堺市政に注文する……………	122
あすの国政に望む……………	123
アンケート……………	123
知名人アンケート……………	123
私の人づくり論……………	124
トロピズム放下……………	125
6	
私の書齋……………	125
秋になったら 葉書回答……………	125
女性への注文……………	125

わが家のしつけ……………	126
言葉 まったりした肌ざわり……………	126
女の魅力……………	126
独立の年・私はかく期待する……………	126
今年の夢……………	127
百才への招待……………	127
思い出してもはずかしい……………	127
これだけはおかしい……………	128
わたしの消夏法……………	128
ことしのプラン……………	128
一寸した心づかい……………	129
不意のお金(一万円) アンケート……………	129
日曜説法……………	129
秋に愛誦する……………	129

書簡

大正十四年（一九二五）		133
〔大正末〕昭和初年（一九二六）〔推定〕		134
昭和二年（一九二七）		136
昭和三年（一九二八）		138
昭和四年（一九二九）		139
昭和五年（一九三〇）		148
昭和十五年（一九四〇）		151
昭和十七年（一九四二）		153
昭和十八年（一九四三）		154
昭和十九年（一九四四）		155
昭和二十年（一九四五）		156
昭和二十二年（一九四七）		157
昭和二十三年（一九四八）		162

昭和二十四年（一九四九）		164
昭和二十五年（一九五〇）		173
昭和二十六年（一九五一）		176
昭和二十七年（一九五二）		182
昭和二十八年（一九五三）		183
昭和二十九年（一九五四）		186
昭和三十年（一九五五）		188
昭和三十一年（一九五六）		190
昭和三十二年（一九五七）		191
昭和三十三年（一九五八）		197
昭和三十四年（一九五九）		198
昭和三十五年（一九六〇）		200
昭和三十六年（一九六一）		204

昭和三十七年（一九六二）	216
昭和三十八年（一九六三）	209

補遺

I

Traumerei	229
春	229
朱冬日記	229
万華鏡	229
Pirate	230
Talent	230
一挿話	230
大阪と文化	231
棄権は敵だ	231

昭和三十九年（一九六四）	220
昭和四十年（一九六五）	224

初秋の堺港にて	232
鉄と火の協奏曲	232
科学の勝利	236
織田作之助の亡霊に逢ふ（上）	238
三丘懷古の歌	240
日記	240
詩人祭のことば	241
枰の上のともしび	241
第一球が投げられた	241
双頭の蛇	242
自伝（半風俗）	243

安西冬衛の半風俗……………	244
引……………	244
東浅香山小学校校歌……………	245
俳句……………	245

II

帽……………	247
Trop long……………	247
鶴……………	248
厥後襟記……………	249
「戦争」に就て……………	250
「植物の断面」の読後に……………	254
最近の出版物……………	256
《シルクとミルク》の印象記……………	257
抒情詩娘……………	257
新詩人へのオマージュ……………	257
夜の馬……………	258
小野十三郎の所業に対するソネット……………	258

III

現代詩に於けるイマアジュとその表現……………	260
初秋の詩の味い方……………	264
「軍艦茉莉」の界限……………	266
(自作自解) 春……………	269

映画と生活

「猟銃」の周辺で……………	272
古い禱り 新らしい宗教……………	276
——「哀愁」と「ウェスト・サイド物語」から——……………	276

IV

高木幸太郎の横顔……………	284
風俗……………	285
美しきロケット……………	286
ふきあげ……………	286
鶴田浩二論……………	287

私の姓名……………	288
スイートビー……………	290
臙脂の衿……………	290
髪を愛しむ……………	291
正月のことば……………	291
私の中学生時代……………	293
平均値（抄）……………	293
主と下僕……………	296
詩よ聴に……………	297
詩人のカメラ……………	298
北野の郷愁……………	298
——「春のおどり」への誘い……………	298
市岡高校生の自殺事件に思う……………	299
みんな健康になろう……………	300
ライムライトなつかし……………	304
きらめく地上の新しい星……………	305
旅での話……………	305
ふるさと岸和田のこと……………	306

赤電話の長電話……………	308
ロカビリーの話……………	309
木下闇……………	310
古い都の新らしい港 新らしい市の 古い港……………	311
戦史の教訓……………	318
貴婦人と小間使い……………	319
たべもの雑俎……………	319
第14回広告電通賞の成果……………	320
（第4回民間放送審議会に出席して）……………	321
遠い人、近い友……………	323
良き時代の良き思い出……………	324
ことしこれだけは……………	325
絵に描いた餅になった艶福……………	326
おんなの帳面……………	328
志賀直哉の姿勢……………	330
美しく哀しきもの 詩は母を かくうたう……………	331

色紙の運命……………	334
ペンキの郷愁……………	335
木更津の芸者……………	336
旅のたのしさ……………	338
新しい年の放送に望むこと……………	339
王様ノ黒子ハ主ニ面白イ……………	
教育はエポケーションである……………	341
雑魚のトトまじり……………	342
校 異……………	345
略 年 譜……………	389
後 記……………	397

放送台本

